



2025年5月1日〜5月31日分

短詩系文藝

## 未来式金粉川柳シヨ

### 復活公園③

未来式金粉シヨも3か月目。前回の途中から、短歌と俳句も仲間に加えたので、本日は川柳シヨではなく、短詩系文藝シヨなのだ。が急に寒えると、「アレ、どうした、どしたうー」と社会に大混乱を招くであろうから(笑)、今回はルビに少しそのことを匂わせた。そのうち、この短詩系文藝が少しずつタイトルを侵食してゆき、しらぬうちに、いよいよ、ホンモノにすり替わってゆくプロセスをお楽しみいただければと願う。僕は追うものであって追われるのは大嫌いだ。それで、五月の連休中に、五月分の短歌・俳句・川柳を全部作っちゃった。だから、五月〇日、あの事件あったからこれはこうねーという日常への還元は効かないシステムになっておる。世の中とていうもんだ。さて、世の中、なんて語ってしまったところで、短詩系文藝金粉シヨ―本書とイクか！

5月1日(木曜日)分

■短歌

ずっと好きでいた人の前に突っ立って

誘惑するよと宣言をする

■俳句

俺ならば回転海老と残り鳴

■川柳

現れた冗談みたいに太つといこ

ちよつとだけサンダーボルトに触れてみて！

この列の中にいい人いるのかな？

散々な目に遭いましたエキスポで

首モグラという怪獣の真の名は？

動力で動くのならば嫉妬する

逆らえばその瞬間に来なくなる  
パンツ脱ぎ座っているのは誰ですか  
爽やかな表情の理由知らぬまま  
上等の布団に包まり殺される

5月2日(金曜日)分

■短歌

尿を飲む人たちがいてその人を見下す人のまた尿を飲む

■俳句

いつの間に剥けたのかしら春の園

■川柳

ポスターの人と全くおんなじ服を買い

シャツターが下りるのを見ず滑り込む

それは君アクション映画の観すぎです

目が痛いきつと失明する予感

誰とでもする人が好きフラダンス

でぶすぎる女と男と餌の金

アレの日のテクマクマヤコンの香り

充実の日の輝きと落日

アフォリズム描いてみるよと煽られる

充分な深さの穴を掘りましょう

5月3日(土曜日)分

■短歌

目の前は曇り空です私の心の中は快晴である

■俳句

筍の種族となりて生き延びる

■川柳

鉄路にてゆきます春の園の中

きみ知らぬだけなの実はばらだいす

骨折をした人のためこの医院

爆発があつたと噂の路地のビル

この時刻見るためだけ生きている

飲んだのは新大阪の駅の中  
天才は作れるんだから 作つてせ  
道歩きながら川柳送ります  
こんなところでも音声認識生きている  
お土産のしらじらしい間を噛みゆく

5月4日(日曜日)分

■短歌

鯉購買つて戻つて組み立てる長屋の賃が井上さん自ずる

■俳句

サングラス外すとあらま可愛いね

■川柳

新快速乗るくらいなら憤死する

半年も同じ靴で道歩く

どきどきの心臓取り出し手術する

母親の生きてた頃の顔浮かぶ

ばりばりと電車の何かが割かれてる

絶対にあげませんったらあげません

こんなにも年寄りなのねきみの猫

濡れタオル当てて湿気を出しましょう

緑色の身体を持つハルカかな

もうすぐねあと43年の我慢だね

5月5日(月曜日)分

■短歌

頑張つて世界に抗したきみだから

きみの恥骨が欲しかった父

■俳句

金魚釣り拳動不審の私の魂

■川柳

流弾にあたつて死ぬる人もあり

髭面の男が前に座ってる

禿頭の羊が一疋寄ってきて

早々に引き上げましょう勝つまでは

盗撮体操着脱ぎ散らかして犬が寝る

心なき事が大事な心です

コンピュータ戦争銃後に我闘えり

縞馬の服着て縞の馬になる

有終の美を飾りつつ復帰する

トイレットペーパーのため命捨て

5月6日（火曜日）分

■短歌

葉桜になつてしまったきみのこと

どうしようもなく哀れだと思つ

■俳句

季語といふ補助輪のあり夏の月

■川柳

各駅にとまる列車を馬鹿にする

牛乳を「スリットル」一気飲みしていた子どもは私である

野洲という間抜けた地名の訳を知る

頂上を目指して今日も目運が

美しき数式の美に侵りゆく

世界史と日本史とあの英単語

お前には一寸たりとも負けません

街路樹の葉っぱもぎつつ今日もゆく

ずき濡れのお前の身体温める

もうちよっとだけ早くして早くして

山崎で降りるふりして車内便機（トイレゆく）

5月7日（水曜日）分

■短歌

曇り空鬱陶しくてならぬから

腹八分目プロジェクトしてみる

■俳句

ルピナスの姿に呆然する朝に

■川柳

遠出しているまに家を売られてる

引越して引越してよし我ら生き

春霞かかっているねきみの脳

芥川の橋の欄干眺めおり

天ぷらを食べたい日には電話する

そこら辺うろついてみてから決めて

パソコンを電車で使う無能人

気持ち良い春の日差しに眠る人

悪徳の出版社を騙す

船出なる言葉の意味が分からない

5月8日（木曜日）分

■短歌

恋人のいない季節に咲く花が

妙に美しくあり美しくあり

■俳句

酒杯のオープンバスやリラの咲く

■川柳

どっちが電話の主？酒交わす

赤すぎる薔薇はやっぱり血糊でした

きみのボタン押すと爆発するでしょね

車内にて分厚い新書読む阿修羅男爵  
計画をやぶるためのみ立ててみる

ストレスを感じられない人と寝る

口説きすぎ口説き文句に飽きてくる

何処までも見渡せるのに置きメガネ

白菜の売れ残ったのを夏に買う

ヌーフラとは何ですかと真顔

5月9日（金曜日）分

■短歌

人生をかけるわけでもないままに

スマホゲームをやり続けるひよ

■俳句

マロニエ下で見直す設計図

■川柳

じゃあまたね気分乗らないバイトする

シャッターが閉まった途端に服を脱ぎ

ちよつとだけ味見をしてもいいですか？

男好きを堂々という留守生

階段は身体に毒止めましょう

本読んで本読んでまた本読んで

本書いて本書いてまた本書いて

ばつちんと輪ゴムで遊ぶ男女たち

薄暗い街頭下で抱き合つて

どういけばいいのでしょうか泣き喚ぐ

5月10日（土曜日）分

■短歌

結論が見えないところ歩くから

その旅の道とても楽しい

■俳句

豆に飯勢いつけて夏を飛ぶ

■川柳

窓の外殺人事件が起こってる  
熊の皮剥いで被って熊になり

悠々とした顔をして焦ってる

大好きな宇治の河原が過ぎてゆき  
墓場なら墓場なんだと言いなさい  
やさしきという変な名の特等席  
生々しい顔が嫌です相撲取り  
通過する列車待つほど暇じゃない  
入れ食いのその向こうには幸せが

街中に鳴り響く鐘不幸者

5月11日(日曜日)分

■短歌

腹の立つことはかりある世の中で  
ネパールのことを思う天国

■俳句

牛蛙を子どもは頃より飼っている

■川柳

かんかんと言たてて陽が昇りゆく  
輪つか投げ捕まえてみれば陽の子ども

走り去る後ろ姿に恋をした

滅びゆく者さあみんな手を挙げて

あげまんをいくつ食べたか気が済むの？

息とめて転生する迄待ちましょか

夫婦連れ電車の中で取すかしい  
ヌーフラと言言葉だけ懐かしい  
我こそが覆面の人チャンピオン  
このあとはどうするのか知りません

5月12日(月曜日)分

■短歌

膝小僧擦りむいたからって泣きながら

僕に訴えても君は知らぬ子

■俳句

金魚鉢被って睡れば龍宮城

■川柳

ギアチェンジして登り切る煙の上  
美人妻不美人な妻きみどちら？  
モテナイくんが沢山来ている京都です  
デストロイヤーみたいな覆面ですね！  
曇り空青空白空風まかせ

7ハンで走るどこまで涅槃まで

納豆を死ぬほど食べて女性化し  
あの無情笑顔の醜いあなたです  
いざ急げ水族館が割れています  
ポンチョ着てハーシン抱いて眠ります

5月13日(火曜日)分

■短歌

山崎の山頂にある思い出の  
古風な館で愛かたりなは

■俳句

葉桜が好きですなんて言わないで

■川柳

日差し強く心弱し我ら

三角の屋根にマークをつけて焼く  
フォルテシモそのマークなら僕らです  
どちらの口狙ってるのか君と僕  
おんぼろな車で君を抱きました  
モテるはずないような人に囲まれて  
ジーンズを洗い尽くして素足なの

パンティーと言つ渾名なら脱ぎますね

タスマニアデビルに似てるように言われ  
確信を持って講座に遅刻する

5月14日(水曜日)分

■短歌

伏したままイチニイサンシ教える

裏の子供らを飛び越えて出社

■俳句

ほととぎす糞を垂れつつ歌いたる

■川柳

「欲望」 川柳十句を書かんとするに詩の形に争る

欲望を欲望として直視する

欲望を欲望でなく記録する

欲望を日記のように書き記す

欲望を現実として記録する

欲望を設計図として動き出す

欲望を知らせるために手をつなぐ

欲望を知らせるためにアートする

欲望を知られたために逃げ帰る

欲望を欲望のまま土に埋める

欲望に欲望と欲望と呼びかける

5月14日(水曜日)分

■短歌

ああいまに残れるものはこれだけの  
この手の中にある一本の筋

■俳句

今日こそはコクソウムシになりたしと

■川柳

鉄も我が右手切り難し

鉄に種類があるならばヒエラルキーもあるう

遠出する暇も頭もありゃしない

語る間に隙間を抜けてゆく汝 美よ

初夏なのにフリースを着て火を付けて

命削るとはよく言ったものだ唯書き  
土を掘るうちに言葉をはめ込んでゆくんだ  
あああれは幻の時期だったのかしら  
乳房掴む以上の暴力はないぞ  
冗談めかして懺悔する奴を殺す

5月15日（木曜日）分

■短歌

どれだけの力があるか見てやろうと言ってくれた師を遙かにしのぎた  
し夏

■俳句

## 聖五月ゆえに穢したし穢し穢したし五月

■川柳

## ぼつぽつと間拔けた音が石油ストープから

## する夜の感傷

ひとつひとつに自信があれば定型にはならない

極端な芸術偏子を食べず

サザエさんの実写版見て罵られる

ここまでは決して息つく暇もなし

なぜなの、どうしてなのうこんなになるまで

飽きてきたくらいでないとか駄目なんですと果物

村々を襲って全て焼く任務

ガチンコの使命で朝から動いてる

その人、小うるさい人、黙つとれ

5月16日（金曜日）分

■短歌

心から強いといえどそのためにそのためにのみ生きている今

■俳句

風光るわれ同じゆうす全時刻

■川柳

滅びゆく国に住まいて未来見る

絶対心の中から絞り出す

ミキサーとコンサートあれば死にはせぬ

## 痩せこけた蛙を見つけ号泣

亀でさえその後十年生きています

ともかくもスケッチせよと美大生

どうでもねいいから生きていてほしい

トムならばきつとジエリーを憐むはず

脳内の地図探りつつ散歩する

朝何本が引き抜いてみた電話線

5月17日（土曜日）分

■短歌

崖を想像せよ、そこに立つわれを、君を、瞬間をもっとリアルに

■俳句

人知れずだが頂点や麦の秋

■川柳

どんなことでも許す人ありそれ、いいね！

人は人圧倒的に滲み出る

爽やかという言葉あり切り裂きけり

飛ぶ覚悟さえあればすぐにできる離陸

真言とは思ひあがつた言葉である

## 坊さんでもある女衞でもある

固いことをいおうとするから軟弱になる

こんなにも自由なんだと亀が啼く

籠の鳥うるさくうるさくうるさくうて可愛し

白鳥の次に君のことが好き

5月18日（日曜日）分

■短歌

何事も本気になれない人がいて

絶望と呼ぶがそれは間違ひ

■俳句

## 桜の実われにありて療法

■川柳

いくたりかの人がいて河川敷

爆音のバイクを狙って機投げ

どうでもいい色彩の油彩画家

咳をする人がねている我の部屋

極限までやらなきやうまくならないわ！

万博の入館整理券を焼く

破裂音遠くで聞こえるパビリオン

正しくないと分かっているてもやる仕事

パンを焼き家焼き我の骨も焼き

もうマイッタしなさいよお前

5月19日（月曜日）分

■短歌

## こころない人の放った言葉なら

## もうさよならをしてもいい頃

■俳句

サンクラスいつもアナタはイキリ顔

■川柳

どうみてもはあさんにしか見えません

そりやどうもこれはおじさん今日は

先生が遠くばかりを眺めてる

本棚に蟻が蜜を吸いに来る

スカートに蟻がたくさん集ってる

我ら皆理想に燃ゆる国の民

白線を密かに消して侵犯す

ロクデナシと呼ばれてそれを超えてゆけ

アングラの人持てない悩みあり

金玉が大きいのだと自慢する

5月20日（火曜日）分

■短歌

大空の青に浮かべる三角にひれ伏すように祈る人々

■俳句

夏めく日あなたの吐息聞いている

■川柳

板張りの座下読経響きあり

私はタコです顔だけで足がない  
稜線をしきりに駆ける人がいる

ヒトガタをちよっと借りてもいいですか  
張翥は貸し出し中です、すみません

## 両目から鱗が落ちて見えません

あほらしい音楽ばかり聴いてます  
全力で走り出したら止まらない  
動力があまりすぎてゐたいだね  
若い衆集めて焚火をやりませう

5月21日（水曜日）分

■短歌

## 御手洗のまだ手に冷たき水のごとし

## 君に触れたる切なき思ひは

■俳句

苗売りや短き夜のために泣き

■川柳

自動操縦車に乗って天国にゆく  
お焼き場の温度調節は自分では出来ない  
焼き鳥は皮ばかりばりに焼いてくれ  
低能の人々と飲む麦酒旨し  
同窓の人も病に癒れたり

## もう二度とゆかない外地の色硝子

夢に見しアグネス・ラムのフルヌード  
どついたる言う直前にどつかれる  
賽子を振ると同時に振られてた  
ジャスミンの香に魅せられ家出する

5月22日（木曜日）分

■短歌

小人らを手の中に入れゆくがゆえ  
手に汗握る場を避けている

■俳句

涙出て飯も乾きぬかきつばた

■川柳

週一回決まったようにやる仕事  
年一度決まったように出合う人  
一秒後決まったようにとまる時  
砂利入れを財布はたいて買いました  
塵取りの中に小銭が落ちていた

## 真つ赤だな真つ赤かだな真つ赤だな

龍神に祈り捧げて餅もちう  
棧橋が短く半身水に濡れ  
それやそとどうかしてるね君の恋

## 水色の下着を記念に掠め取る

5月23日（金曜日）分

■短歌

今度また行きましようねと誘われて  
今度でいつと問い詰める人

■俳句

夕牡丹だるい女と二人旅

■川柳

午前中榎原神宮前に乗り  
言い訳はそのくらいが可愛いね  
ばしこんと後頭部うち寝癖ける  
これ全て時間の無駄と判定す  
蒸気浴するとは何ですか薬巾！  
一里塚をたよりに歩くはかばかり

## 鴨川で溺れる人もあるのです

鴨川も一応は川死にます

## 猛然と体を預けてくる西瓜

## 猫道を知った以上は猫になり

5月24日（土曜日）分

■短歌

もしも君があと二年の命ならどれだけの歌をもっと歌えるか

■俳句

帰り道笑ってばかり夏の月

■川柳

## 井戸端に子熊が走る騒ぎです

ぬるぬるとした湯につかり夢をみる  
暴走の王と初めてお会いする  
言葉なら前田日明にでも勝てる  
哲学者たという君には連絡しないぞずっと  
とうせんぼされた記憶だけが鮮明

## アンダンテ貫くことのできる人

上陸を途中でやめる君の腰  
我々の神はカーネルサンダース  
トクオカがボークしてゐるどうしよう

5月25日（日曜日）分

■短歌

地球儀の上から見下ろす僕などは  
どんな顔して笑ってみえるか

■俳句

もう梅雨に入るのを待つばかりなり

■川柳

ずんどこ節の原義は恥ずかしいはず

## 木を切つて稼ぐあなたはエリートね

人騙し稼ぐあなたは裏の人  
木の枝のように折えないわが図像

## ちよこまかと動くわれらのお嬢様

騙されてガールズバーの女を知る  
金貯めてガールズバーに貢ぎもの  
連絡はこつちにくたさいガールズバー  
どうしても貴が伸びないの断頭です

ハンバーガーやつきになって分裂し

5月26日(月曜日)分

■短歌

こひびとのつれなき言葉に驚きて

緑の衣装で死に給ふなり

■俳句

幼きの毒貫いて草莓

■川柳

秒針の動きを朝から記録する

昼時のなるチャイムの音傘でる

夕来る逆立ちするの忘れてた

春の日の息継なしの向こう岸

土足禁止の博物館で逢引す

飽きてきたフレンチ住宅折りたたむ

プレハブの螺旋階段割れやすし

ピアノ弾く少女の指の写真撮り

ミラノから電話かかってすぐに切る

情報と神経病の相関図

5月27日(火曜日)分

■短歌

「砂漠谷」という呪文だけ残しつつ

君はどこかへ消えてしまった

■俳句

青野原恋人たちと発電所

■川柳

龍宮の地図なくしたり恋の闇

時止まり、あたしや大変、小学生

ドンキッコって何でしたかねと君尋ね  
つまみぐいし続けたからできました  
肩こりに効くのは恋の薬かも

妄想のコップで酒を飲みまぐり

こんなにも桜田淳子を思い出す

火遊びをした日に火事になりました

恋人と連れションをする夢をみて

余命ありと看板に書く意義は何?

5月28日(水曜日)分

■短歌

さらさらと溢れてゆこう風ならば

砂ならばまた君ならば

■俳句

昨日よりも美しき人金魚玉

■川柳

年末の録画を思い出して観る

AIと深い関係になり困る

思い立ち立身出世を企図する

地図を書き地図を貰って世に尽くす

ある朝に駄句をたくさん読みました

ささささ今年も下着に虫が居る

ノーマークフレイヤーに全部奪われて

あいつなら郵便ポストの成れの果て

考える力を捨てた招き猫

ヨカならばこんなことで俺はやる

5月29日(木曜日)分

■短歌

一時間おきにメールが来るならば

愛、恋、情かまたは督促

■俳句

山藤や廃校になお美しき

■川柳

切岸ににこやかに立つ少女あり

踊るのは背中がかゆい翔子です

全体の中に自分を捨ててみる

遠回りして到着の療法士

YouTubeでオひけらかすわしの亀

どうですかうひつきりなしに誘い来る

バンクーバーあたりに住んじゃどうでしょう

また夏の感して生きて死んだ君

よしとせよそれならよしとせよその生き方

観たいもの見逃す宿命のわたし

5月30日(金曜日)分

■短歌

昨日来た誕生石の贈り物

誰からなのか分からないまま

■俳句

青嵐や快速列車のプラ模型

■川柳

うつちゃってうつちゃってそ地の塩で

お土産のベビークレーメン二気食い

鯖を読む技術を学ぶ若き人

ハンドメイド自慢大会が始まるよ

改行をしないならば俺のもの

異妻酒夢の中まで持ち込んで

心なき観光客をちのめす

白線の上で何秒立ってますか?

柔らかい君自家製のジュースです

食って骨まで尽くして僕の鳥

5月31日(土曜日)分

■短歌

君がもし鳥籠に居て囀って

その後飛び立つならば僕も飛ぼうよ

■俳句

五月尽き我が約束も消えて今

■川柳

むしゃむしゃという音はそれ笑い声

今回の教訓生かしては嫌よ

垂直式睡眠で完全に復活だ

夢に出るブルーノ・サンマルチノ亡霊

コップ割り皿割り目標も割り

読本の裏側まで読む力なし

目撃をむかし訪ねた日の記憶

遠くから呼ぶ声がする目の声

根性の腕立てのすべてお陰です

ここまでは来たが頂上すつと先